

授業科目	発達障害作業療法治療学	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中島そのみ (保健医療学研究棟 E509 号) e-mail : sonomi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石泰仁、中村裕二		
概要	発達障害作業療法学で学んだ知識をもとに、障害特性毎に体系的な評価と治療立案の技術を習得する。本講義では、より実践的な治療方法や支援技法を学ぶため、疾患特性と作業療法治療学との関連を教授するだけでなく、遊びの計画や自助具の製作過程において対象者への適応を考えることでより臨床的な知識の提供を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例を通して、評価の解釈、治療立案のプロセスを学ぶ。 2. 発達障害作業療法において主に治療対象となる疾患について、その障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制を学ぶ。 3. 福祉機器や自助具の適応について、実際に疾患に合わせた機器や自助具の作成を行い学習する。 4. 発達障害作業療法と遊びについて、実際に遊びの計画等を通し、遊びの治療的側面を学習する。 5. 作業療法以外のリハビリテーションや療育サービスの概要を理解し、チームアプローチの方法について学ぶ。 		
関連科目	小児科学、発達障害作業療法学、作業療法臨床実践法(オスキー) 1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	定期試験	100%	
教科書	①社団法人 日本作業療法士協会 監修 [2010 年] 「作業療法学全書 [改訂第 3 版] 第 6 巻 作業療法学 3 発達障害」 協同医書出版社		
参考書	①岩谷力ら編集 [1996 年] 「小児リハビリテーション I・II」 医歯薬出版 ②上杉雅之 監修、辛島千恵子 編集 [2016 年] 「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版		
履修上の留意点	本講義は 2 年次に学習した小児科学、3 年次に学習した発達障害作業療法学の知識を基盤として行う。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	セミナー	仙石・中島・中村
2	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
3	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
4	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
5	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
6	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
7	筋ジストロフィーを中心とした神経・筋疾患の障害構造の評価	事前：小児科学で学習した神経・筋疾患の内容を確認しておく。教科書 pp118-124 「神経筋疾患」の部分を読んでおく。	講義・演習	中村

8	筋ジストロフィーを中心とした神経・筋疾患の治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した神経・筋疾患の内容を確認しておく。教科書 pp118-124 「神経筋疾患」の部分を読んでおく。	〃	〃
9	分娩麻痺を中心とした筋・骨格系障害の障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制	事前：配付資料を読んでおく。	〃	〃
10	脳性麻痺を中心とした中枢神経疾患の障害構造の評価	事前：小児科学で学習した脳性麻痺の内容を確認しておく。教科書 pp91-106 「脳性麻痺」の部分を読んでおく。	〃	仙石
11	脳性麻痺を中心とした中枢神経疾患の治療原理、治療手技と療育体制①	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
12	脳性麻痺を中心とした中枢神経疾患の治療原理、治療手技と療育体制②	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
13	重症心身障害の評価と治療原理①	事前：脳性麻痺で学習した内容を復習しておく。教科書 pp106-118 「重症心身障害」の部分を読んでおく。	〃	中村
14	重症心身障害の評価と治療原理②	事前：脳性麻痺で学習した内容を復習しておく。教科書 pp106-118 「重症心身障害」の部分を読んでおく。	〃	〃
15	重症心身障害の治療手技と療育体制①	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
16	重症心身障害の治療手技と療育体制②	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
17	二分脊椎を中心とした脊髄障害の障害構造の評価	事前：リハビリテーション医学で学習した二分脊椎の内容を確認しておく。	〃	中島
18	二分脊椎を中心とした脊髄障害の治療原理、治療手技と療育体制	事前：リハビリテーション医学で学習した二分脊椎の内容を確認しておく。	〃	〃
19	肢体不自由児・者を想定した機器や自助具の作成①	事前：脳性麻痺・重症心身障害で学習した内容を復習しておく。	講義・演習	中村・中島
20	肢体不自由児・者を想定した機器や自助具の作成②	事前：脳性麻痺・重症心身障害で学習した内容を復習しておく。	〃	〃
21	知的能力障害の障害構造の評価	事前：教科書 pp160-172 「知的障害」の部分を読んでおく。	講義・演習	中島
22	知的能力障害の治療原理、治療手技と療育体制の評価	事前：教科書 pp160-172 「知的障害」の部分を読んでおく。	〃	〃
23	自閉スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害)の障害構造の評価、治療原理	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 「学習障害、注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害等」に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
24	自閉スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害)の治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
25	限局性学習症(限局性学習障害)の障害構造の評価、治療原理	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
26	限局性学習症(限局性学習障害)の治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記	〃	〃

		載の関連内容を読んでおく。		
27	注意欠如・多動性症(注意欠如・多動性障害)の障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
28	発達性協調運動症(発達性協調運動障害)の障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
29	まとめ:症例検討①(疾患を想定し、実際に具体的な訓練プログラムを立案する	事前：配付資料を読んでおく。 事後：グループ学習	〃	〃
30	まとめ:症例検討②(疾患を想定し、実際に具体的な訓練プログラムを立案する	事前：配付資料を読んでおく。 事後：グループ学習	〃	〃